

## 『人物完成図に対して人工知能を用いた発達スクリーニングの開発』

### 後ろ向き観察研究に関するオプトアウト説明文

【人物完成図に対して人工知能を用いた発達スクリーニングの開発に関する臨床研究への協力について】

#### 1. 本研究（検討）の目的

知的能力障害(ID: Intellectual Disability)は、医学領域の精神遅滞(MR: Mental Retardation)と同じものを指し、論理的思考、問題解決、計画、抽象的思考、判断、学校や経験での学習のように全般的な精神機能の支障によって特徴づけられる発達障害の一つです。症状が重ければ年齢の若いうちから気づかれ、軽いと診断も遅くなります。早期に発見され適切な療育が施された場合、長期的予後は改善するとされており、このようなお子さんを早期に発見するために、発達スクリーニングが必要とされています。発達スクリーニングとは、受診者の中からフォローが必要なお子さんを見つけるための簡便な発達評価法のことです。本来、発達・知能検査は、訓練された専門家によって、十分な時間をかけて行われるため、全てのお子さんに従来の検査をする方法でスクリーニングをすることは、検査者にもお子さんにも負担になります。そのため、発達検査の一部の検査項目を抽出して発達スクリーニングを実施している市町村もあり、1 歳 6 ヶ月児健診では「積木の塔」や「絵指示」、3 歳児健診では「トラックの模倣」や「大小比較」、「長短比較」等の

検査項目が用いられています。しかし、何歳児の健診でどんな検査を行うことが最善かという点に関しては、現在も議論されています。

そこで、当施設では過去に新版 K 式発達検査を受けられ、人物完成図を書かれたお子さんを対象として、人物完成図に対して人工知能を用いた発達スクリーニングを開発する研究を計画しました。

## 2. 対象

新版 K 式発達検査 2020 標準化のための基礎データ収集にご参加いただいた方および、タブレット版発達スクリーニング検査の開発のための基礎データ収集にご参加いただいた方、2011 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの期間に近畿大学病院で検査を受けた方を対象としています。

## 3. 方法、研究が行われる機関、実施場所

お子さんの情報・検査結果を閲覧しながら、個人を識別する情報を除いた年齢・性別の一般情報と新版 K 式発達検査の結果を調査票に記入し、人物完成図の結果を取得します。この時点で匿名化は完了しています。個人識別情報が含まれないデータのみが用いられます。研究者は、近畿大学病院内及び近畿大学情報学部情報学科において、データの統計解析を実施します。京都国際社会福祉センター及び平安女学院大学において取得された情報は匿名化して近畿大学病院小児科に提供されます。データの利用は研究代表者の所属する

近畿大学病院小児科、および共同研究者である近畿大学情報学部情報学科計算知能研究室に所属する者に限定されます。情報の管理については近畿大学医学部が責任を有します。

#### 4. 研究における倫理的配慮について

本研究は、直接お子さんに介入する研究ではなく、お子さんの生命・健康に直接影響を及ぼさず、費用もかかりません。また、人体から採取した試料は用いず、個人を特定するデータも存在しませんが、「個人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して個人情報の取り扱いに注意します。

#### 5. 研究への参加・不参加について

上述のような後ろ向き観察研究ですが、ご自身のデータが観察研究に用いられることを同意されない場合には、研究代表者（下記）にご連絡下さい。また、観察研究に同意されなくても、今後お子さんが不利な扱いを受けることは決してありません。

研究代表施設：

近畿大学病院 研究代表者：近畿大学病院医学部

電話 (072) 366-0221 内線：8701 Mail:mynrminto@gmail.com

共同研究施設：

京都国際社会福祉センター 研究責任者：足立 絵美

電話 075-612-1506

平安女学院大学子ども教育学部 研究責任者：清水 里美

電話 072 - 693-2564

近畿大学情報学部情報学科 研究責任者：半田 久志

電話 (06) 4307-3047 Mail : [handa@info.kindai.ac.jp](mailto:handa@info.kindai.ac.jp)